

ASEAN グローバルプログラムで 得たもの

山尾 達也
Tatsuya YAMAO
機械システム工学科 2年

1. はじめに

2017年8月29日から9月1日にかけてベトナムにて工場見学、ハノイ工業大学の学生とのPBL、2017年9月1日から6日にかけてシンガポールにて南洋理工大学プログラム、若手ビジネスパーソンとの交流を含んだASEANグローバルプログラムに参加しました。具体的なプログラムの日程を表1に示します。本稿ではプログラムに参加した目的、研修内容、シンガポールでのビジネスパーソンによる交流会・講演会、プログラム全体を通して得たもの、および本プログラムを通じて設定した今後の目標について記しました。

表1 プログラムの日程

8月29日(火)	出国、ベトナム着
8月30日(水)	ベトナムでの会社見学
8月31日(木)	ハノイ工業大学の学生とのPBL
9月1日(金)	PBLのプレゼンテーション
9月2日(土)	博物館見学
9月3日(日)	シンガポール着
9月4日(月)	南洋工科大学研究室見学
9月5日(火)	ビジネスパーソンと交流
9月6日(水)	観光
9月7日(木)	帰国

2. 参加目的

ここ数年でベトナムのGDPは急上昇していますが、現在の日本のGDPはここ数年あまり上昇していません。そこで私は、今急上昇しているベトナムにはどのような学生がいるのかまた、その学生はど

のような価値観を持っているのかを知ることが目的としました。また、シンガポールで働いているビジネスパーソンが日本ではなく、なぜシンガポールを仕事の場に行っている理由を知ることが目的としました。

3. 研修内容

3.1 ハノイ工業大学の学生とのPBL

ハノイ工業大学の学生とのPBLでは、2人のベトナム人学生と5人の龍谷大学の学生とが協力して1つのテーマについて考え、調査を行いました。ここでは、ユニクロの商品をベトナムで売るならどのような工夫をすれば売れるのだろうかというテーマに取り組みました。表1に示してある通りベトナム人学生との交流期間は2日間でした。この2日間でベトナム人学生と意見交換をしながらアンケート調査を行い、その結果をまとめるというのは難しい課題でした。しかしながら、チームで協力することでアンケートを約200人にとることができました。このときに、ベトナム人は親切で几帳面なところが日本人に似ているなど感じました。しかし、日本人よりベトナムの方が何事にも熱意があるなども感じました。なぜなら、アンケートをしていて空欄があるアンケート用紙はほとんどなく、この点は見習うべきだと思いました。インターネットで事前にベトナムについて調べていたが現地に行かないとわからないことがたくさんあることも知ることができました。

3.2 シンガポールでのビジネスパーソン交流会

ビジネスパーソンとの交流会では、現地で起業されている日本人の方々として築野様、寺嶋様、芝崎様、大野様、と交流をしました。この交流会では主になぜシンガポールで働こうと思ったのか、また日本とシンガポールの違いは何なのか等の話をしました。中でも築野さんは4人の中でも最も長くシンガポールに滞在してらっしゃるので細かいところまで教えていただきました。築野さんと話していると今

の自分には何が足りないのかまた、今後どうしていくべきかについてとても考える機会を得ることができました。寺嶋さんからは学生生活において気を付けるべきことについて話すことができました。寺嶋さんと話していると学生生活は周りの人に流されてはだめだと思いました。芝崎さんからは日本とシンガポールの仕事のやり方の違いについて教えていただきました。大野さんは、アメリカに住んでいたという経験からアメリカと日本とシンガポールの3カ国の生活の違いや考え方の違いについて教えていただきました。今回の交流会では自分の将来について深く考えさせられ、また将来の道の選び方のアドバイスをいただきとても濃い時間を過ごしました。

3.3 加藤さんの講演会

今回のプログラムの最後に加藤さんの講演会を聞くことができました。加藤さんは「若者よ、アジアのウミガメとなれ」の著者である。加藤さんは様々な会社を企業してきて、今はシンガポールにて日本人の起業家の支援ならびに経営に参画しています。加藤さんの講演会は本の内容とほとんど大差はなかったです。しかし、講演会の後の質問会では本に書いてあること以外のことをたくさん聞くことができました。講演会が終わった後は加藤さんが講演会で話されていたことを実際に調べ、行動に移してみようと強く思いました。たとえば、今日本で最も成長している会社はどこだろうとインターネットで調べたり、また日本だけでなく世界にはどんな企業があるのだろうと調べてみたりしてしまうくらい加藤さんの講演会は自分にとっては刺激的でした。これからも、加藤さんがおっしゃっていたことを実践していこうと思いました。

4. おわりに

今回のプログラムを通してたくさんの経験をさせ

ていただきました。このプログラムを行うとき私はすごく緊張したし、なにより不安でした。なぜなら、英語は満足に話すこともできないし一人で参加したので、まわりに友達もいない状況でした。またベトナムではデング熱がはやっているなど経験したことがないことが一度に壁として立ちはだかっていたのでとても不安でした。私は、まさにその言葉に当てはまっていました。しかし、加藤さんも講演会で言っておられましたが自分の可能性や能力を小さくしてしまっているのは自分の心だとおっしゃっていました。した。今回勇気を出してこのプログラムに参加させていただきましたが私の人生にとっても大きな影響を与えてくれたなと思いました。精神面以外にも自分はまだまだ知らないことがたくさんあるのだなと思い知らされました。ベトナムでは見たこともないくらいの量のバイクが走っているし3人乗りや4人乗りもベトナムでは当たり前に行われていました。日本にずっと住んでいると日本での常識が海外では当たり前ではないことにも気づくことができませぬ。私はまだ2カ国しかしっかりと見る事ができていませぬので世界にはまだまだ知らないことがあるだろうし今見えているものよりも見えていないものの方が多いと思います。なので、私はこれから英語の勉強はもちろんのこと世界の歴史や文化についても積極的に調べたり勉強したりしたいと思っています。将来のことについては、加藤さんや築野さん、寺嶋さん、芝崎さん、大野さんのアドバイスや講演を参考に日本だけでなく日本以外の国も選択肢の1つとしてこれからじっくりと検討していきたいと思っています。このプログラムは将来のことや自分自身のことについて考えるよいきっかけを作ってくれたなと思い感謝しています。

今回のプログラムにおいて、普段では経験できないような貴重な機会を与えてくださった皆様に心よりお礼申し上げます。